

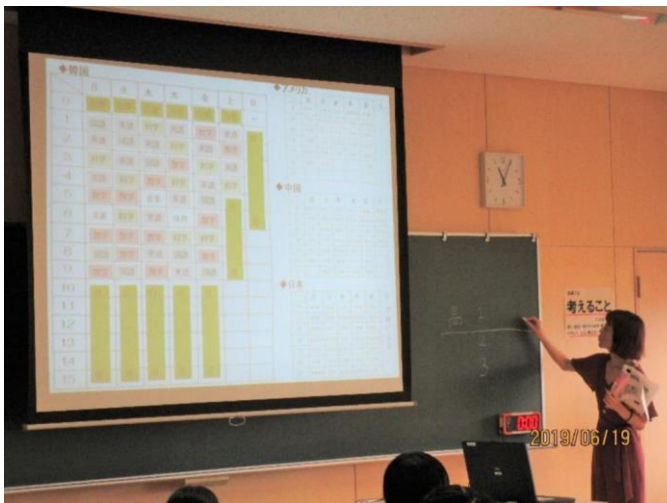
## 社会福祉における交流活動—山形県高島町での経験を通して

立教大学大学院コミュニティ福祉学研究所

金 信慧

私が所属している立教大学コミュニティ福祉学部（コミュニティ福祉学研究所）と山形県高島町は 2001 年 4 月から地域連携プログラムの 1 つである「高島プロジェクト」が始まり、2010 年 11 月には相互友好協定を結び、さまざまな形での連携交流を続けている。具体的に実習や演習、農業体験や調査研究など、毎年双方からの提案による事業活動が繰り広げられてきた。

高島町は、山形県の南東にある人口約 2 万 3 千人の町で、ぶどう「デラウェア生産量日本一」など、農業の盛んな町としても知られる。また、高島町は「まほろばの里」と呼ばれている。「まほろば」とは、「周囲を山々で囲まれた、実り豊かな土地で美しく住みよいところ」という意味の古語である。実際、山形新幹線高島駅を降りると、南に飯豊連山、西に朝日連峰、東を蔵王山に囲まれ、米、野菜、果物の豊かな土地を目にすることができる。



当時の写真

(山形県立高島高等学校ホームページより)

ニティを担う人材を育てることを目的としている。

立教大学と高島高校の高大連携交流事業として 11 年目を迎える令和元年 6 月 19 日（水）～20 日（木）の 2 日間、私は立教大学大学院コミュニティ福祉学研究所の大学院生（後期課程）講師として派遣され、山形県立高島高等学校立教大学プロジェクト「立教大学院生による特別講義」に参加した。「立教大学院生による特別講義」は、高島高校の福祉選択の生徒に対して講義と生徒とのディスカッション形式の授業を行い、大学の高等教育を高校生徒に受講させることで知的欲求を開発し、山形県内各市町村の未来の地域コミュニティ

1 日目、「社会福祉基礎」では、4 月から初めて社会福祉を学ぶ 2・3 年次生徒（約 50 名）を対象に社会福祉を学ぶ面白さを中心に、私が社会福祉の道に進んだきっかけや、韓国と日本の社会状況、両国における福祉の今後の課題などについて講義をした。

2 日目、1 年間を通して自ら設定した課題を研究する「社会福祉研究」では、私が大学院で行っている研究の内容について講義をした後、「社会福祉研究」選択の 3 年次生徒（6 名）による課題研究の発表を行った。現在生徒がそれぞれ取り組んでいる課題研究のテーマは、孤独死や無理心中、高齢者の介護問題、高島町の観光案内、地域復活の方法等、多様

であり、興味深く議論を深めることができた。

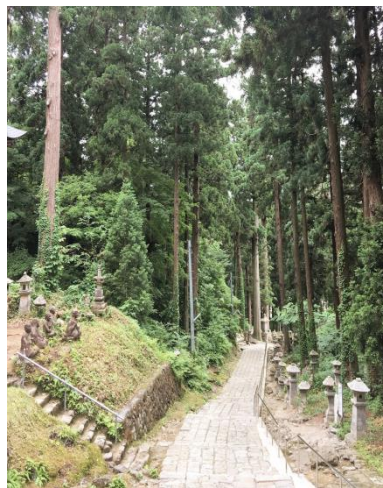
高島高校での特別講義だけでなく、1泊2日の間、高島高校の評議員（元高島町役場の職員）の方のお宅にホームステイをして得られたこともたくさんある。たとえば、日本の茶道や着物の体験、ぶどう農園の作業など、普段はできない大変貴重な経験をすることが出来た。

また、奈良県桜井市の安倍文殊院、京都府宮津市の智恩寺（切戸の文殊）とともに、日本三文殊の一つに数えられる亀岡文殊（大聖寺）をはじめとして、高島ワイナリー、瓜割石庭公園、安久津八幡神社など、高島町の観光スポットを案内していただいたこともとても楽しかった。

これからも私の研究領域である「社会福祉」を媒介として、日本と韓国さらには世界における交流活動を続けていきたいと強く思っている。



亀岡文殊の入り口  
(本人撮影)



大聖寺へ上り道  
(本人撮影)



知恵をつかさどる  
(本人撮影)